文学7講義内容20

―身近な生活のことばから文法を知る―

2009.11.17　更新

萩原義雄

はじめに

国語学者故大野晋氏が岩波新書から『日本語練習帳』という書物を一九九九（平成十一）年に世に送り出し、此の書物はあらゆる日本語相の人々に日本語の手引き書として受け容れられたことはご存知であろうか？四十五問から成る問題を通して、読者の日本語能力を診断するもので、はっきりものを云い、はっきりものを書く。このためには、ものごとをはっきり見定める必要がある。ことばの持つ性質を知るということは、例えば日本語になかに潜む「同音異義語」の微妙な意味の差異に敏感に気づくことでもある。再び、この大野晋氏の提示する日本語の世界を体感してみては如何と考える。

今、私たち日本語を母国語とする日本人が海外から訪れる日本言語文化を学ぼうとする人々の熱い眼差しに堪えうる状況にあるかといえば、かなり疑わしい様相であることは重々ご承知かと思われる。こうした昨今、日本語を真剣に考え、学ぼうとする老若男女の人々が多くの講座にやってくるようになった。この人達は、複数の講座で複数の先生から日本語を学ぶことで、多くの多角的な知識を得ようとしている。彼等が得た知識は実際に海外からの学習者との異文化交流の実践へと移されるからだ。こうした一端を見据えながら、文学における日本語のことばの時間の単元の一つとして、この身近な生活のことばから文法を考えてみることにした。

1、昨今、ことば表現のなかで

「かわいい」と「かわいらしい」

☆彼からは「かわいいね」と言われるのと「かわいらしいね」と言われるのはどちらが嬉しいか？
子供服売り場に書いてある字は「かわいい服」と「かわいらしい服」はどちらの言葉があっているか？
←
☆「かわいい」は主観。「かわいらしい」客観的な言い回しかた。よって、彼からは「かわいいね」服は「かわいらしい服」とするとよりふさわしくなる。

あなた**に**もらった→「に」は主観的意味が強い。
あなた**から**もらった→「から」客観的意味が強い。

「は、が」の用法

☆「は」がくるときは説明のとき。
☆五六　みわたせば　柳櫻をこきまぜて　都ぞ春の錦なりける
枕草子　春はあけぼの→春はこういうものだということを説明している。
「春**が**あけぼの」ではおかしい。

★「は」と「が」の使い分けは感覚的に使い分けていることが多いけれども、文法にしたがって使わないと正しい意味が見えてこない。

「負けず嫌い」と「食わず嫌い」

「負けず嫌い」の「ず」は、「んとす」→「うず」→「ず」からきている。

「ず」・・・〔助動特殊型〕〔○・○・ず・ずる・ずれ・○〕推量の助動詞「うず」の訳。

「うず」・・・〔助動サ変型〕①推量や仮想の意を表す。・・・だろう。**②意志や決意の意を表す。**

「食わず嫌い」の**「ず」**・・・打消の意を表す。

『古語大辞典』小学館参照

よって「食わず嫌い」の「ず」は、食べたくないという意志を表し、「負けず嫌い」の「ず」は打消を表している。

＊東海道五十三次の静岡のあたりに「食わず嫌い」の「ず」と同じ用法が出てくる。

《設問１》

「考えた」「決心した」「決意した」「覚悟した」というそれぞれの語を文例を用いてその意味の違いを述べてみましょう。

《設問２》

「ナイーブ」と「天衣無縫」との意味の違いをそれぞれの文例を用いながら調べてみよう。

2、　インテリ女性がお母さん

女性の和語から漢語使用へ

・「男子は長髪は禁止（駄目）なんでしょ」（視覚表現）←「男の子は長い髪はいけないのでしょ」（聴覚表現）

・「他人の文章をまるで自分の考えのように追っていくわけでしょう？　1日何時間も、まるで自分の執筆のように。他人の思考回路に同調するのよね。それって、妙なものよ。違和感がないところまで入っていけたりしてね。どこまでが自分の考えなのかわからなくなったり、普段の生活にまで人の思考が混入していたりね。影響力の強い人のものを訳していると、ただの読書の何倍もひっぱられるわよ。」［吉本ばなな『N・P』一四二頁］

・「子育ては試行錯誤の連続よ。」［吉本ばなな『N・P』一四三頁］

平安時代の女流文学者紫式部、清少納言であっても漢語使用量は次のような具合である。

『源氏物語』帚木の巻・雨夜の品定め（学者の娘が大声で格式ばって話す表現）

・「つきごろふびゃう〔風病〕おもむきにたへかねて、ごくねち〔極熱〕の草薬を服〔ぶく〕していとくさきによりなむ、え対面たまはらぬ　まのあたりならずともさるべからむ　ざうじ〔雑事〕らはうけたまはらむ」

あいぎょう【愛敬】あうむ【鸚鵡】あんない　【案内】うしん【有心】ごうとう　【強盗】こうじょう【考定】こうみょう【高名】がくもん　【学問】ごうし【合子】きちょう　【几帳】ぎょうこう【行幸】きょうけい【行啓】ぎょうじ　【行事】くどく【功徳】くのう【苦悩】くよう【供養】かんにん【官人】がんもん　【願文】げこう【下向】けしょう　【化粧】けちえん　【結縁】げぼん【下品】けんぎ【嫌疑】けんそ【見証】やこう【夜行】

3、おしゃべり文章と漫画世代の子供

明治の言文一致運動：二葉亭四迷『浮雲』

現在の言文一致文章：漫画の会話表現をそのまま使用

私家版『象徴語辞典』の試み

―擬音語・擬声語・擬態語・擬容語・擬情語・その他（無音声語・無情状語）―

一、擬音語

○女がその手をぴしゃりと平手でたたいて、御気の毒様もう約束済ですと云う。《夏目漱石『虞美人草』六一頁》ひらて【平手】〔終止音〕

○知らぬ車はごとりごとりと廻転する。知らぬ四人は、四様の世界を喰い違わせながら暗い夜の中に入る。《夏目漱石『虞美人草』一〇一頁》キシャ【汽車】ごとりごとり〔開始音〕

○残るは只右手に当る弓形の一カ所となった時、がちゃりと釘舌を捩る音がして、待ち設けた藤尾の姿が入口に現われた。《夏目漱石『虞美人草』二八七頁》ボルト【釘舌】がちゃり（道具）〔開始音〕

○座敷のなかにこの二句を点じただけで、後は故の如く靜になる。ところへ鯉がぽちゃりと又跳ねる。

池は東側で、小野さんの脊中に当る。小野さんは一寸振り向いて鯉がと云おうとして、女の方を見ると、相手の眼は南側の辛夷に注いでいる。《夏目漱石『虞美人草』二一〇頁》みずおと【水音】〔池の鯉が跳ねた時の音〕

二、擬声語

人の声

○六畳の座敷は淋しい人を陰気に封じ込めた。ごほんごほんと咳をせく。《夏目漱石『虞美人草』二四九頁》ごほんごほん（せき【咳】）〔継続音〕

鳥の声

○あるいは雀はちゅちゅで烏はかあかあとも云う。謎の女は烏をちゅちゅにして、雀をかあかあにせねば已まぬ。《夏目漱石『虞美人草』一四四頁》すずめ【雀】ちゅちゅ。からす【烏】かあかあ

動物の声

○迷うて、苦しんで、狂うて、踊るとき、始めて女の御意は目出度い。欄干に繊い手を出してわんと云えという。わんと云えば又わんと云えと云う。犬は続け様にわんと云う。女は片頬に笑を含む。犬はわんと云い、わんと云いながら右へ左へ走る。《夏目漱石『虞美人草』一九〇頁》いぬ【犬】わん(通常音)

三、擬態語

○じゃ時計は入りません、然しあなたは……と聞くと、私？　私は無論時計にくっついているんですと向をむいて、すたすた歩き出す」《夏目漱石『虞美人草』六二頁》すたすた(歩行)〔速い状態〕

四、擬容語

○柘榴石がぱっと燃えて、燄のなかに、女の姿が、包まれながら消えていく事がある。《夏目漱石『虞美人草』六一頁》ざくろいし【柘榴石】(家屋具の色彩)〔瞬時〕

○机の前に頬杖を突いて、色硝子の一輪挿をぱっと蔽う椿の花の奥に、小野さんは、例によって自分の未来を覗いている。《夏目漱石『虞美人草』六一頁》　つばきのはな【椿の花】(樹木類)〔瞬間動作〕

五、擬情語

○昨日まで舞台に躍る操人形の様に、物云うも懶きわが小指の先で、意の如く立たしたり、寐かしたり、果は笑わしたり、焦らしたり、どぎまぎさして、面白く興じていた手柄顔を、母も天晴れと、うごめかす鼻の先に、得意の見栄をぴくつかせていたものを、――あれは、ほんの表向で、内実の昨夕を見たら、招く薄は向へ靡く。《夏目漱石『虞美人草』二〇七頁》どぎまぎ(不安感)〔心理情態〕

○帰って来た時に辛い目に逢わせる。辛い目に逢わせた後で、立たしたり、寐かしたりする。笑わしたり、焦らしたり、どぎまぎさしたりする。《夏目漱石『虞美人草』二〇七頁》どぎまぎ(不安感)〔心理情態〕

六、その他《無音表現》

○折柄向う座敷の方角から、絹のざわつく音が、曲がり櫞を伝わって近付いて来る。《夏目漱石『虞美人草』三五頁》絹のざわつく音(絹布類)〔ばさばさ〕

○「それからね。――小米桜の後ろは建仁寺の垣根で、垣根の向うで琴の音がするんです」《夏

目漱石『**虞美人草**』六一頁》ことのね【琴の音】（楽器類）｛ていていん、ていていん｝
○鶯（うぐいす）も鳴かぬ代わりに、目に立つ程の塵もなく掃除の行き届いた庭に、長過ぎる程の松が、わが物顔に一本控えている。《夏目漱石『**虞美人草**』三五頁》うぐいす【鶯】（鳥類）｛ホゥホケキョと｝
○やがて櫞の片隅で擦る燐寸（マッチ）の音と共に、咳は已（や）んだ。《夏目漱石『**虞美人草**』二四九頁》マッチ【燐寸】（道具類）｛シュッ｝

七、その他《無状表現》

参考文献資料　夏目漱石『虞美人草』新潮文庫

［絵画情報処理］＝テレビの代用品

1象徴表現

電話の発信音「トゥルルル」「ルロロロロ」
ドアホーンの音「ピンポーン」
車の発進音「ドキュウウウーン」「ドッヒューン」（F－MEGA），「バイィィィンンン」
光輝くまぶしさの情態「パァアアアッ」
虫の動きの情態「うぞうぞ」

※母音eは品がよくない。子音k，tは堅さ、sは摩擦感、mは柔らかさ、h，bは抵抗感のなさ、rは粘った滑らかさのイメージ

2符号表現

「ルンルン♪」
「助けて！」